

特集を終えて……

本特集の準備を進めているとき、総務省より2010年3月末の住民基本台帳に基づく人口、人口動態および世帯数の発表があった。死亡数が出生数を上回る人口の「自然減」が調査を開始した1980年3月以来最多となり、本格的な人口減少社会に入った可能性があるという。また、10月には国勢調査が実施された。本格的な人口減少社会となつてから初めての調査であり、5年間の人口動態がどのような結果になるのか興味深い。

今回の特集では多くの方々から話を伺ったが、共通していた点は、まずは将来の地域の姿をしっかりとらえよということであつたと感じた。問題・課題の本質が明らかになれば、先行きが見えないことに対する不安も幾分か緩和するのではないだろうか。

本特集を通じ、人口減少社会への転換は一つのチャンスであると感じた。本特集で取り上げた富山市は人

口減少社会への対応として都市構造の変革を図り、南房総市では地域づくりのための新たな組織のあり方を探った。何よりも話をお伺いすると、皆さんが非常に明るく、活気に満ちあふれている。世界に先駆けて人口減少社会に突入したこともあり、その処方箋を見つけることは容易ではなく、むしろこれから蓄積されていく。未経験の問題に対して先駆けて対処した経験は、遅かれ早かれ人口減少に転じる近隣のアジア諸国や世界をリードする力になると確信している。本特集が人口減少社会を前提とした国や地域のあり方について改めて考える契機になれば幸いである。

最後に、大変お忙しいなか、原稿の執筆並びにインタビューを快くお引き受けいただいた方々をはじめ、本特集にご協力いただいたすべての皆様に感謝の意を表し、本特集の結びとしたい。

(神田 佑亮)

